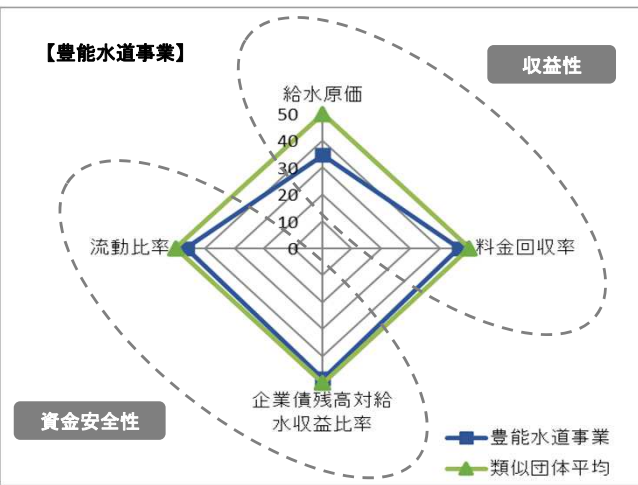


1 豊能水道事業の概要

令和2年度

【豊能水道事業】			
給水人口	18,967人	管路延長	204.1km
年間総給水量	1896.9千m ³	浄水場設置数	1箇所
年間総有収水量	1756.9千m ³	配水池設置数	21箇所
給水人口1人当たり管路延長	10.8m/人	有収水量密度	1.35千m ³ /ha



豊能水道事業は、簡易水道と専用水道を統合してきた経過があり、配水効率の悪い地理的条件等の背景から、他団体と比べて給水に係る費用が高くなりやすい状況となっています。

収益性については、平成30年度に料金改定を実施したことにより改善が見られましたが、それでもなお、料金回収率は恒常的に100%を下回っており、料金収入で給水に係る費用を賅っていない状況です。

資金安全性については、直ちに経営危機となる状況ではないものの、類似団体と比べ短期的な支払能力が低い水準にあり、料金収入の規模に対する企業債残高も若干高い水準となっています。

単位：千円

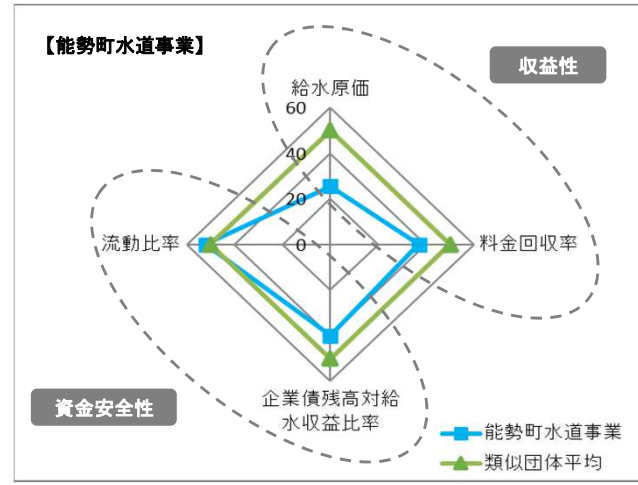
○収益的収支	H28	H29	H30	R1	R2
収益的収入	626,951	588,829	721,778	672,999	644,940
給水収益（料金収入）	402,418	400,589	453,388	448,970	416,637
収益的支出	681,122	617,648	719,959	647,567	633,282
減価償却費	294,476	286,083	270,672	273,703	269,851
当期純利益	-54,171	-28,819	1,819	25,432	11,658
○資本的収支	H28	H29	H30	R1	R2
資本的収入	233,169	102,386	152,642	122,266	300,518
企業債	157,000	55,200	89,500	70,000	230,000
資本的支出	351,881	261,575	297,917	319,915	552,398
建設改良費	155,098	58,478	89,611	104,781	343,145
企業債償還金	196,783	203,098	208,306	215,134	209,253
○残高等	H28	H29	H30	R1	R2
企業債残高	2,418,824	2,261,726	2,137,420	1,992,286	2,013,033
有収率	90.6%	90.4%	88.6%	88.8%	92.6%

収益的収支について、収入面では、平成30年4月1日に料金改定を実施したため、給水収益が同年度に増加しています。その後、給水収益は減少傾向で推移していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により減免を実施しており、その影響を除くと増加しています。一方、費用面では、減価償却費が年々減少していることから、収益的支出も減少傾向となっています。当期純利益は、平成30年度以降は黒字となっていますが、令和元年度以降、一般会計から統合に伴う繰入金が2,950万円計上されており（令和20年度まで、総額5億9,000万円）、これを除くと赤字となります。

2 能勢町水道事業の概要

令和2年度

【能勢町水道事業】			
給水人口	9,487人	管路延長	209.1km
年間総給水量	1021.2千m ³	浄水場設置数	3箇所
年間総有収水量	835.4千m ³	配水池設置数	48箇所
給水人口1人当たり管路延長	22.0m/人	有収水量密度	0.29千m ³ /ha



能勢町水道事業は、簡易水道を統合してきた経過があり、配水効率の悪い地理的条件等の背景から、他団体と比べて給水に係る費用が高くなりやすい状況となっています。

収益性については、料金回収率が恒常的に100%を大きく下回っており、料金収入で給水に係る費用を賅っていない状況です。

資金安全性については、短期的な支払能力は他団体と比べて高い水準にある一方で、料金収入の規模に対する企業債残高は高い水準となっています。

※豊能水道事業、能勢町水道事業のレーダーチャートは、類似団体平均を50とした時の各事業の指標の状況を相対的に示したものであり、外側ほど優位となります。

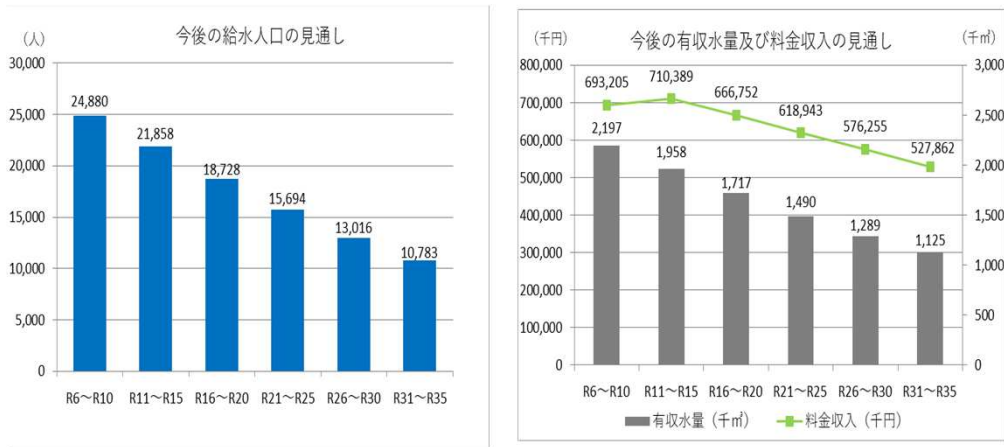
単位：千円

○収益的収支	H28	H29	H30	R1	R2
収益的収入	461,604	478,113	443,480	454,683	446,779
給水収益（料金収入）	221,074	225,978	220,377	218,643	187,836
収益的支出	476,058	481,668	478,450	449,619	440,387
減価償却費	208,592	212,163	213,572	205,101	202,151
当期純利益	-14,454	-3,555	-34,970	5,064	6,392
○資本的収支	H28	H29	H30	R1	R2
資本的収入	176,295	104,767	97,845	79,071	100,038
企業債	53,700	0	0	0	0
資本的支出	287,045	236,556	185,074	170,652	212,213
建設改良費	153,290	103,897	55,728	39,347	78,785
企業債償還金	133,577	131,452	129,337	130,411	133,067
○残高等	H28	H29	H30	R1	R2
企業債残高	2,747,243	2,615,790	2,486,453	2,356,042	2,222,975
有収率	80.1%	77.9%	75.8%	79.5%	81.8%

収益的収支について、収入面では、給水収益は横ばいで推移していましたが、令和2年度に減少しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による減免を実施しており、その影響を除くと増加しています。費用面では、減価償却費が平成30年度をピークに減少傾向となっています。当期純利益は、令和元年度以降、黒字となっていますが、新規受水の加入金等により一時的に黒字化したものであり、その影響を除くと赤字となります。なお、地方交付税措置のある高料金対策として、一般会計からの繰入金が計上されています。

3 豊能水道事業、能勢町水道事業の今後の見通し

水需要は、豊能水道事業、能勢町水道事業ともに減少傾向となっており、今後もこの傾向は続くものと見込まれています。これに伴い、料金収入についても、今後、減少傾向で推移する見通しとなっています。



今後の経営環境

今後、急速な人口減少に伴い、料金収入は減少することが見込まれるなか、保有施設の老朽化等に伴い更新費用が増大するなど、水道事業を取り巻く経営環境は、さらに厳しいものとなる見込みです。

そのような状況の中で、将来にわたって安定的に事業を継続していくためには、施設の更新費用や事業運営に係る費用の財源を確保する必要があります。料金水準の見直しや一般会計からの繰入金により収入を確保していく必要があります。

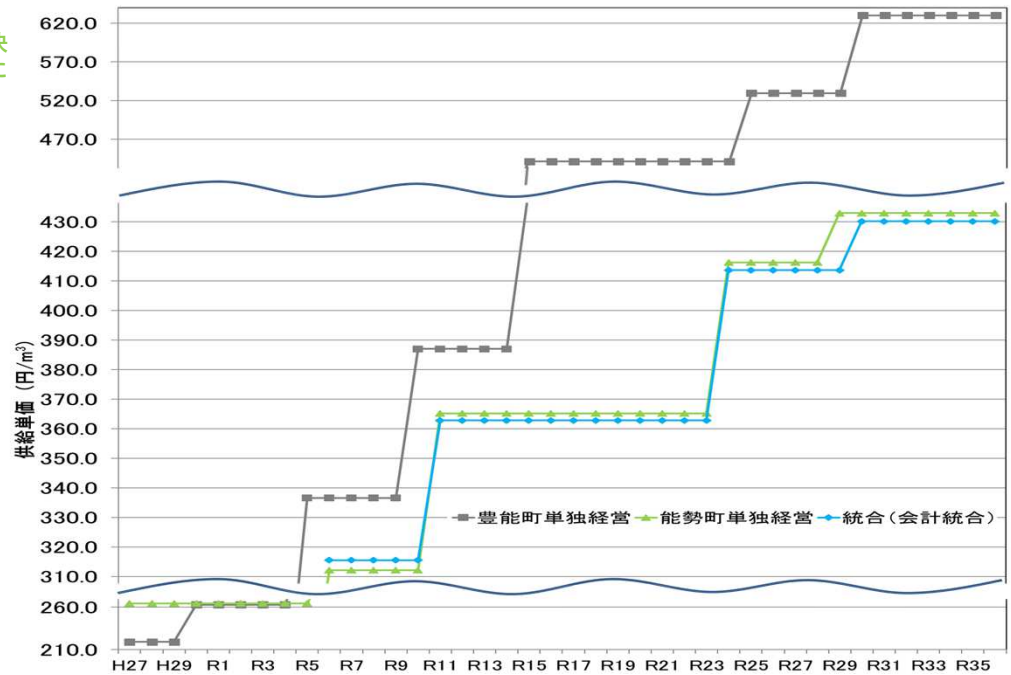
また、全国的にも職員数の減少や高齢化に伴う技術力の維持・継承等の課題があり、小規模な団体ほど顕在化していくことが想定されます。これに関連して危機管理体制が脆弱になりやすいため、災害等の緊急時への対応も懸念されます。

解決に向けた方針

豊能水道事業は、令和元年度に企業団と統合しました。また、令和6年度には、能勢町水道事業が企業団に統合し、一層、経営の効率化を図る予定です。

令和6年度の能勢町水道事業の企業団への経営統合にあわせて、豊能水道事業及び能勢町水道事業の事業と会計を統合することにより、経営の安定化を図る予定です。

【企業団との統合に当たり策定した統合案時点における供給単価のシミュレーション】

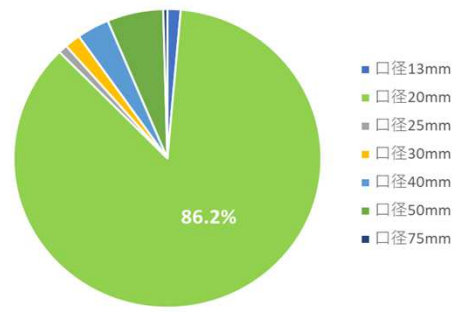


※供給単価 (円/m³) = 給水収益 / 年間総有収水量
 使用者の支払う水道料金の1立方メートル当たりの平均単価を示す指標

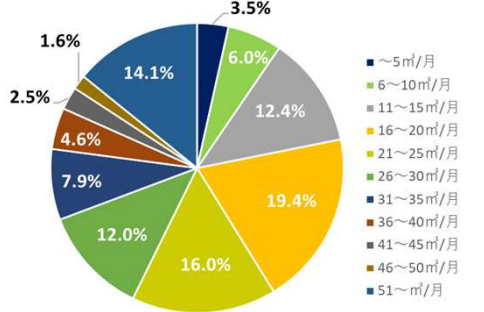
4 豊能水道事業の水道料金等の把握

口径別料金収入の割合は、口径20mmの使用者が86.2%と多くを占めています。使用水量区別料金収入の割合は、16~20m³/月の使用者が19.4%と多くを占めています。

料金収入(口径別の割合) (令和2年度)



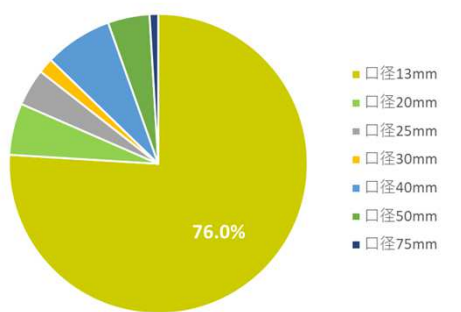
料金収入(使用水量区別の割合) (令和2年度)



5 能勢町水道事業の水道料金等の把握

口径別料金収入は、口径13mmの使用者が76.0%と多くを占めています。使用水量区別料金収入割合は、51m³以上/月の大口使用者を除くと、16~20m³/月の使用者が11.9%と多くを占めています。

料金収入(口径別の割合) (令和2年度)



料金収入(使用水量区別の割合) (令和2年度)

